

平成18年度 伊丹市行政評価 ～事務事業評価編～

※事務事業名に【新規】の表記があるものは、H18年度から新たに開始された事業、【未実施】の表記があるものは、「これから5年間のまちづくりプラン」に位置付けがあり、H19年度以降に事業開始が予定されている事業。
 ※本記載内容は、評価表作成時点（H18年8月）のものであり、その後の状況変化などにより、公表時点において実施時期や事業費等が変更になっている場合があります。

事務事業コード	132405							
事務事業名	育児・ともに語る広場事業	担当部局・課 健康福祉部 健康福祉課						
事業内容	1クールを8回、年2クールとして実施。対象は、子育てに負担感・イライラ感を訴える親や虐待予備軍となる親。ベーシックエンカウンターの手法を用い、臨床心理士がファシリテーターを務め支援する。児へは保育士が発達に応じた保育メニューを提供する。							
	事業開始(予定)年度 平成15年度	事業終了(予定)年度 —						
この事業の上位施策	視点	支え合いでつくる「安全・安心」のまちを実現						
	項目	きめ細かな地域福祉の推進						
この事業の上位施策	施策	市民の健康づくり推進（母子）						
	⇒「これから5年間のまちづくりプラン」は、「第4次伊丹市総合計画」の後期5か年(H18～22年度)に計画的に取り組むべき具体的事業等を明らかにした事業実施計画です。 行政評価の実施にあたっては、各事務事業をこの計画体系に沿って整理しています。							
事業の目的	子育てに負担感やイライラ感を募らせたりする親の増加が近年みられ、孤立感のある親が同じ悩みを持つ親同士で支え合い、エンパワーメントされたり、感情の受け止め方やストレスマネジメントの方法を知ること、親としての役割を引き受け、自信が持てるように支援する。	予算費目 (複数の費目にまたがる場合は、主な費目を表示しています。)						
事業費等の概算	平成17年度(決算)		平成18年度(予算)					
	事業費	財源内訳		事業費	財源内訳			
		375千円	国・県補助金等		—	421千円	国・県補助金等	—
			市債		—		市債	—
			その他(使用料等)		—		その他(使用料等)	—
	一般財源(市税等)		375千円	一般財源(市税等)	421千円			
投入人員	0,30人	⇒年間を通じてこの事業に投入される人的資源を概算により算出しています。算式で表すと次のようになります。 =担当課職員数×(当該事業の仕事量÷課の全仕事量)	投入人員	0,31人	⇒年間を通じてこの事業に投入される人的資源を概算により算出しています。算式で表すと次のようになります。 =担当課職員数×(当該事業の仕事量÷課の全仕事量)			
人件費	2,570千円	⇒年間1人あたり平均人件費に投入人員をかけて積算したものです。	人件費	2,655千円	⇒年間1人あたり平均人件費に投入人員をかけて積算したものです。			
経費合計	2,945千円		経費合計	3,076千円				
活動指標	指標名(単位)	延参加者数(人)		計画と実績	年度	H17年度	H18年度	
	意味・算式等	—			区分	計画値	384	384
					実績値	257	—	

評価結果	B
	上位施策に対する貢献度はやや高く、効率性を点検した上で継続する。

上記評価結果は、事務事業の活動状況などに関する評価に同一施策内での各事務事業の相対的な評価等を加味して総合的に評価したものです。